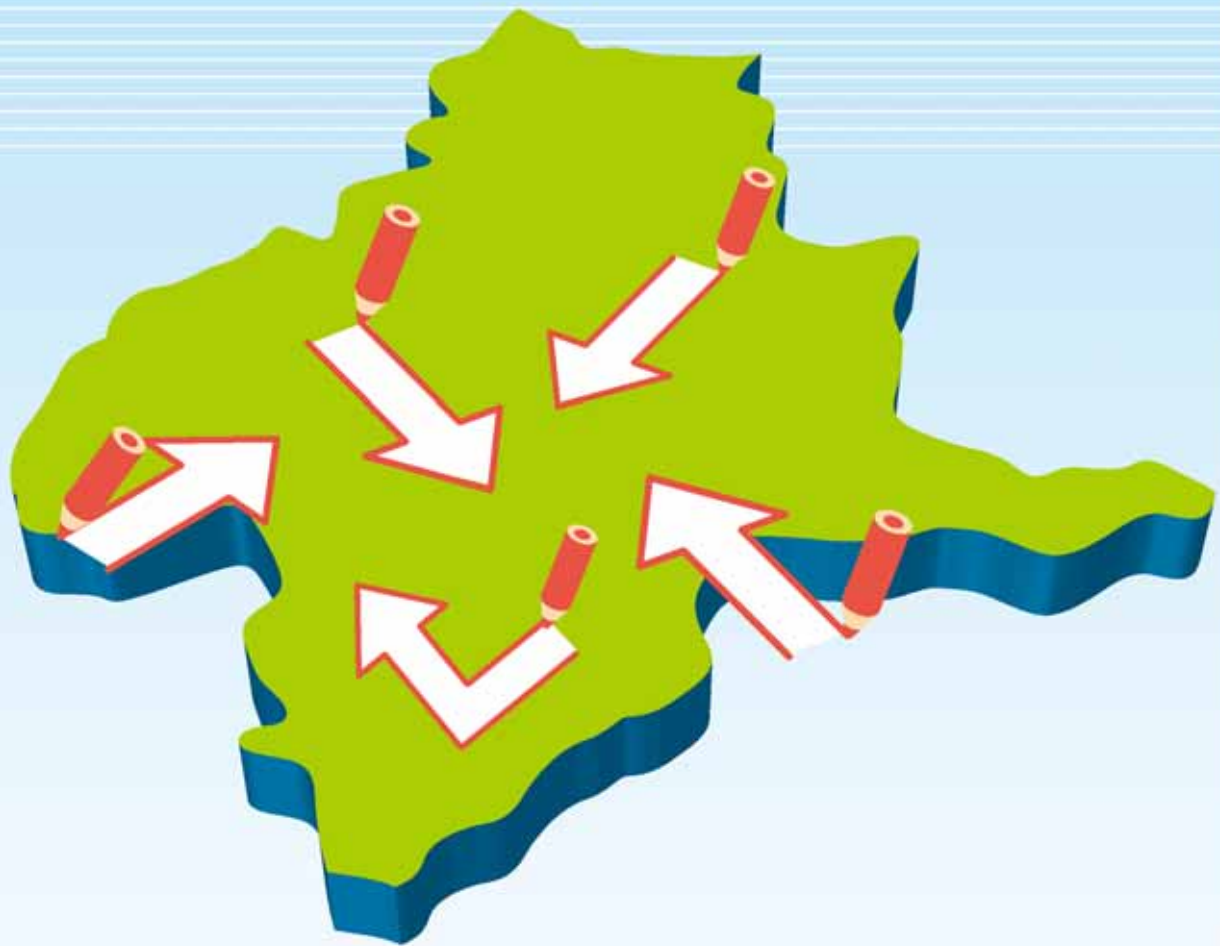


ぐんまの道づくり

平成17年度
達成度報告書（アウトカム・レポート）

平成18年度
業績計画書（アウトカム・プラン）



〔概要版〕

群馬県道路協議会

ぐんまの道づくり

平成17年度 達成度報告書（レポート）
平成18年度 業績計画書（プラン）

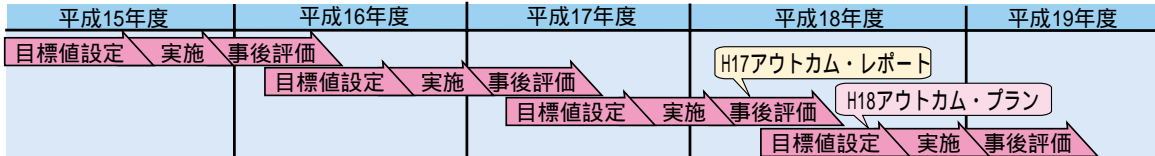
群馬県道路協議会



達成度報告書（レポート）・業績計画書（プラン）の策定について

新たな道路行政への転換

道路行政では、他の行政分野、公共事業分野に先駆けて、成果主義の行政マネジメントを推進しています。群馬県においても、平成15年度より、目指すべき成果を事前に宣言した「ぐんまの道づくりアウトカム・プラン」を発表し、成果主義の道路マネジメントを開始しています。今年はその4巡目です。



政策方針と成果指標の設定

4つの方針と指標の選定

「平成17年度アウトカム・プラン」では、群馬県の道路行政が目指すべき成果を示す指標として、施策の特性に応じた10指標を設定し、4つの施策方針（政策課題）に応じて分類した上で、以下の3点を県民の皆様様に提示しました。

1. 社会的背景（群馬県の課題など）や施策の必要性
2. 平成17年度に実施される事業
3. 事業により改善が期待される指標の現況値・目標値



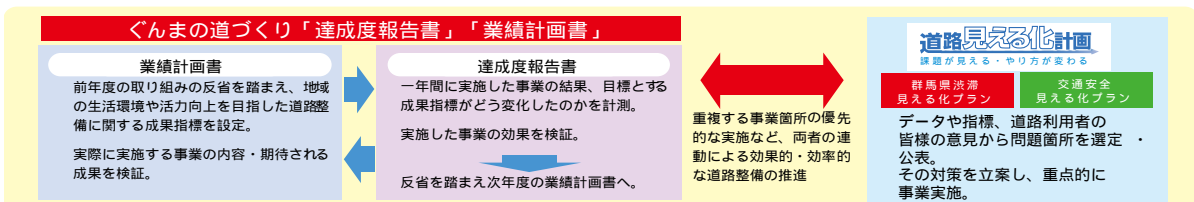
事業の実施による成果指標値の改善状況の把握・検証と課題の整理：
「平成17年度アウトカム・レポート」

平成18年度の群馬県の道路行政への取組：
「平成18年度アウトカム・プラン」

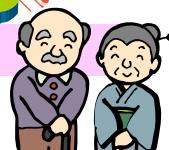
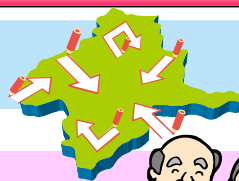
「ぐんまの道づくりアウトカム・プラン」と「道路見える化計画」との連動

「道路見える化計画」とは

国や地方の財政が逼迫する中で、これからの行政は限られた予算で効率よくサービスを提供していかなければなりません。そこで国土交通省では道路の課題をデータできちんと把握し、その最適な解決法を見だし、解決を急ぐべきところから対策を講じていくため、「道路見える化計画」を推進していきます。



●ぐんまの道づくり



交通事故の削減

あんしん歩行エリアの整備(箇所)

歩行者や自転車が安全に通行できるよう緊急に対策すべき16箇所の「安全歩行エリア」について、歩行空間や信号機、交差点改良や歩行者・自転車を優先するゾーン形成等の対策を進めています。

事業継続中 **H17目標** : エリア内の死傷事故件数2割削減 (H16実績: 16箇所中8箇所着手)
H17実績 : H17目標値に対して事業継続中

対策事例:
車道及び路側帯の改善
(高崎市東町地区)



H18目標 : 未着手2箇所でも事業着手し、
H17目標値に対して事業継続中

対策予定箇所:

館林市
緑町地区
(主)前橋館林線



事故危険箇所への対策推進(箇所)

交差点改良、照明や標識設置、歩道の整備などの安全対策を施し事故危険箇所の解消を目指します。

事業継続中 **H17目標** : エリア内の死傷事故件数3割削減
(H16実績: 174箇所中156箇所着手)
H17実績 : H17目標値に対して事業継続中

対策事例:
路面への
「追突注意」の表示
(国道254号甘楽町)



H18目標 : 未着手9箇所でも事業着手し、
H17目標値に対して事業継続中

対策予定箇所:

市役所前交差点
(藤岡市)
(主)藤岡本庄線

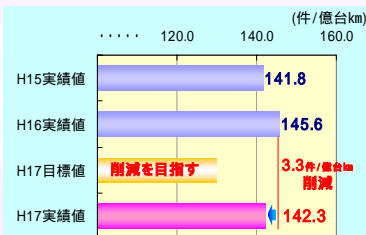


死傷事故率の減少(件/億台km)

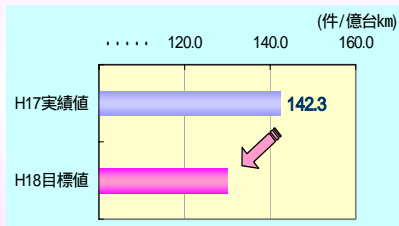
死傷事故率「1万台の自動車が行った1万km走行した場合に発生する死傷事故の割合」の減少を図ります。

目標達成 **H17目標** : 事故率の削減を目指す (H16実績: 145.6件/億台km)
H17実績 : 142.3件/億台km

あんしん歩行エリアや事故危険箇所などを進めた結果、16年度より**3.3件/億台km**死傷事故率が削減されました。



H18目標 : さらに事故率の削減を目指す



医療・福祉の向上

総合病院30分到達圏域の拡大(%)

道路ネットワーク整備の効果として、医療設備の整った総合病院までの所要時間が30分以内となるエリア圏域の拡大化を進めています。



目標達成 **H17目標** : 83.6% (H16実績: 83.4%)
H17実績 : 83.6%

平成17年度には(主)中之条湯河原線 須川バイパス(2,050m)が供用開始となり、みなかみ町の旧新治村周辺で約1,000人が総合病院まで30分で到達可能となりました。
 この整備により、総合病院30分到達カバー圏域は**83.4%から83.6%へと0.2%拡大**しました。



H18目標 : カバー圏の拡大を目指し事業を継続

カバー圏拡大する主な事業例:

(一) 苗ヶ島 飯土井線



● ぐんまの道づくり



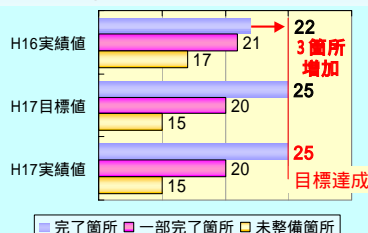
渋滞の解消

渋滞箇所への対策推進(箇所)

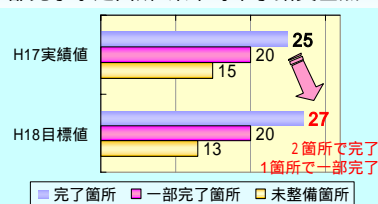
渋滞箇所(未整備箇所)への対策推進を成果とします。

目標達成 H17目標 : 3箇所での完了(H16実績:完了22,一部完了21,未整備17)
H17実績 : 3箇所で完了(完了合計25箇所)

H17年度では、以下の**主要渋滞ポイント** 3箇所を整備しました。
・三ツ寺交差点
(都市計画道路 菅谷中央線の整備)
・金井南交差点
(都市計画道路 中村上郷線の整備)
・北群馬橋交差点
(国道353鯉沢バイパス整備)



H18目標 : 2箇所で完了,1箇所の一部完了
完了予定箇所:藤阿久交差点・小相木交差点
一部完了予定箇所:東本町十字路口交差点

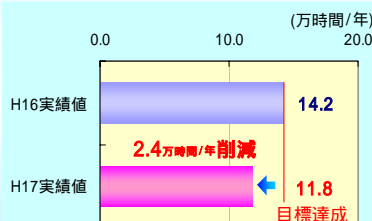


渋滞損失時間の削減(万時間/年)

渋滞によって失われる時間「渋滞損失時間」の削減を図ります。

目標達成 H17目標 : 渋滞時間の削減を目指す(H16実績:14.2万時間/年)
H17実績 : H16より2.4万時間/年の削減

H17年度は未整備及び一部完了となっていた渋滞ポイントで重点的な整備を進め、当初の目標通り3箇所ですべての事業が完了しました。
その結果、整備完了3箇所による渋滞損失時間は、**2.4万時間/年の削減**となりました。



H18目標 : 渋滞時間の削減を目指す

H18年度は藤阿久交差点・小相木交差点の2箇所対策事業が完了予定であるほか、東本町十字路口交差点の1箇所一部完了予定であることから、これら3箇所における渋滞損失時間の削減を目指します。



自転車走行空間の確保

サイクリングロード整備率(%)

群馬県で策定している自転車利用促進のための「サイクリングロードネットワーク計画」では、よりよい自転車走行環境の創設を進めており、このサイクリングロードの整備の促進を図ります。

事業継続中 H17目標 : H18年度完成(H16実績:1,496.2km中818.7km整備完了(54.7%))
H17実績 : 1496.2km中、901.1km整備(60.2%)

【サイクリングロードの整備事例】
既存歩道の再整備



H18目標 : 整備概成を目指します

平成18年度は、国道17号、18号、50号、(主)前橋玉村線、(主)桐生伊勢崎線などで段差の解消等を進めるほか、自転車専用道路である利根川自転車道線の整備を進め、未整備区間595.1kmの早急な整備を目指します。



ぐんまの道づくり



産業・観光の振興

幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大(%)

道路ネットワーク整備の効果として、幹線道路(上信自動車道、北関東自動車および高速道路インターチェンジなど)へのアクセス所要時間が30分以内となるエリア圏域の拡大化を図ります。

事業継続中 H17目標 : 将来的な目標を目指し圏域拡大(H16実績:81.4%)
H17実績 : 81.4%

平成17年度は、北関東自動車道、上信自動車道、国道120号椎坂バイパス、(主)前橋長瀬線、(一)大原境三ツ木線等の整備を進めましたが、新たに供用開始となった区間がなかったため、指標は前年度から変化は無く81.4%のままとなっています。



事業継続中の上信自動車道(国道145号)

H18目標 : すべての市町村への圏域拡大に向け事業継続

【平成18年度に実施予定の主な対策事業】

道路名	事業の内容
北関東自動車道	伊勢崎IC以東への延伸
上信自動車道	整備促進
国道120号	椎坂バイパス整備(沼田市)
(主)前橋長瀬線	バイパス整備(藤岡市)
(一)大原境三ツ木線	現道拡幅(太田市)

規格の高い道路の利用の向上(%)

規格の高い道路(北関東自動車道等)の全線供用化は、地域の幹線道路を利用する長距離交通の転換につながり、道路の適切な機能分担化が図れるため、規格の高い道路の整備を促進します。

事業継続中 H17目標 : 将来的な目標目指し利用率を向上する(H16実績:10.1%)
H17実績 : 10.4%

平成17年度では、新たな供用開始区間は無く、平成16年度に比べ0.3ポイントの増加程度。

ソフト面での対応としては、昨年引き続き関越自動車道駒寄PAにETC専用ゲートを設置する社会実験を継続して実施中。



駒寄PAのスマートIC(関越自動車道)

H18目標 : 大幅な向上を目指し、規格の高い道路の利用強化

平成18年度で実施する道路整備事業に加え、既存のICへのアクセス道路の整備、スマートICの設置など、比較的短期間、低費用で実施できる利用利便性向上についても積極的に検討します。

情報の公開

情報の公開

ホームページアクセス数

群馬県や高崎河川国道事務所のホームページへのアクセス数



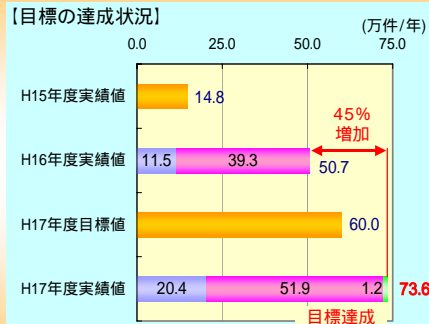
事業継続中 H17目標 : 600,000件(H16実績値507,423件の2割り増し(高崎河川国道のみ))
H17実績 : 735,753件

平成17年度は、新たに渋滞箇所及び交通安全危険箇所を图示し、「見える化プラン」を掲載するなど、県民の皆様がわかりやすい情報提供に努めました。



群馬県渋滞見える化プラン

交通安全見える化プラン



(*)県道路関係HPアクセス数はH17年度から新たに指標に追加

H18目標 : 約900,000件(H17の2割り増し)

平成18年度は、これまで多くのアクセスを得て好評いただいているライブカメラのリニューアルを図るほか、子ども向けページに「道のヒミツ2」を掲載するなど、利用者のニーズに応じた多様な情報提供の充実を図ります。



ぐんまの道づくり



H17目標値に対する実績とH18の目標値を指標毎に整理

方針	課題	成果指標(単位)	H16現況値	H17目標値	H17実績値	H18目標値	「道路見える化計画」との関連
県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備(箇所) 歩行者及び自転車の安全な通行を確保する「あんしん歩行エリア」の整備とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。	16箇所 (着手箇所8)	H19までに エリア内での 死傷事故件数 2割削減	目標値に 対して事業 継続中	H19までに エリア内での 死傷事故件数 2割削減	交通安全 見える化 プラン
		事故危険箇所への対策推進 死傷事故が多発する「事故危険箇所」への対策推進とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。	174箇所	H19までに エリア内での 死傷事故件数 3割削減	目標値に 対して事業 継続中	H19までに エリア内での 死傷事故件数 3割削減	
		死傷事故率の減少(件/億台キロ) 1万台の自動車が行った1万km走行した場合に発生する死傷事故数の減少を成果とします。	145.6件/億台 km	死傷事故率の 削減を目指す	142.3件/ 億台km	さらに事故率の 削減を目指す	
	医療福祉の向上	総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%) 総合病院に30分以内に到達できるエリア(可住地面積に対する割合)の拡大を成果とします。	83.4%	83.6%	83.6%	カバー圏の拡大 を目指し事業を 継続	
環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備	渋滞の解消	渋滞箇所への対策推進(箇所) 渋滞箇所への対策を成果とします。	対策事業の進捗状況 完了22箇所 一部完了21箇所 未整備17箇所	3箇所での 完了に向けた 対策推進	3箇所での 事業完了	2箇所での完了 及び1箇所での 一部完了へ向 けた対策推進	渋滞 見える化 プラン
		渋滞損失時間の削減(万時間/年) 渋滞によって失われてしまう時間の削減を成果とします。	県内の総渋滞 損失時間 8,267.9 万時間/年	渋滞損失 時間の削減を 目指す	3箇所での渋 滞対策完了に より2.4万時 間/年の削減	渋滞損失時間 の削減を目指す	
	空間の確保	サイクリングロード整備率(%) サイクリングロードの整備計画のうち、実際に整備された割合の向上を成果とします。	54.7%	平成18年度 概成を目指し 事業継続	60.2% 901.1km整備 事業継続中	計画の概成を 目指す	
地域の自立と個性を守る道路整備	産業観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大(%) 新幹線駅または高速道路などのインターチェンジまで30分で到達可能な市町村数の増加を成果とします。	81.4%	将来的な目標 を目指し 圏域拡大	81.4% 事業継続中	すべての市町村 への圏域拡大 に向け事業継 続	
		規格の高い道路の利用の向上(%) 目的地により早く、確実に到達できる規格の高い道路が利用される割合の向上を成果とします。	10.1%	将来的な 目標目指し 利用率の 大幅な向上	10.4% 事業継続中	大幅な向上を 目指し、規格の 高い道路の利用 強化	
情報の公開	情報の公開	ホームページアクセス数(件/年) 国土交通省高崎河川国道事務所、群馬県道路関係課のホームページアクセス数の増加を成果とします。	507,423件/年	約600,000件/ 年	735,753件	約900,000件	